



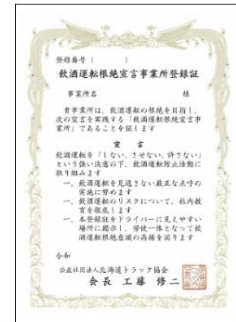
【公益社団法人北海道トラック協会】 ～事業所一丸となって交通事故・飲酒運転をゼロに！～

◆2,179事業所及び事業所従業員46,364人が飲酒運転根絶宣言！

2021年（令和3）年に千葉県八街市で飲酒運転のトラックが下校中の小学生の列に突っ込み、5人が死傷する悲惨な事故が発生したことを機に、北海道トラック協会では、これまで以上に、会員が一丸となった飲酒運転根絶の強化策を展開しています。

道内2千社を超える事業所と、その従業員4万6千人を超える皆さん一人ひとりが「飲酒運転根絶の宣言」を行い、2022年7月13日（飲酒運転根絶の日）には、トラック運送業界の総意として宣言書を北海道警察に手渡すセレモニーも開催されました。同協会では、工藤修二会長名で「飲酒運転根絶事業所登録証」を発行し、社内での掲示を促すなど業界全体での飲酒運転ゼロを目指しています。

併せて、北海道と（公社）北海道交通安全推進委員会が2022年度にスタートさせた「飲酒運転根絶宣言事業者登録制度」にも、2千社を超える会員事業所がいち早く登録されました。



◆「プロが示す交通安全運動」をはじめ、インパクトある啓発活動を展開

毎年9月21日（秋の全国交通安全運動の初日）から12月20日までの3か月間、「プロが示す交通安全運動」と称して、独自の啓発期間を設けています。令和4年度で45回を数え、各地区トラック協会や北海道警察などと連携しながら、各種啓発活動を実施しています。

また、「飲酒運転根絶の日」には、苫小牧と札幌のトラックステーションでの啓発活動を独自に展開するほか、季節ごとの4期40日の運動期間や節目の交通安全の日、10月9日のトラックの日などには、旗の波作戦や啓発グッズの配布などを、協会や各事業所においても積極的に取り組むを行っています。また、北海道や北海道警察と連携して実施する飲酒運転ゼロキャンペーンには「ゼロ」をイメージしたバームクーヘンを市民に提供したり、夕張市のキャラクター・メロン熊をモチーフにした飲酒運転根絶ポスターを制作するなど、市民や多くの観光客の心にとまる取組も展開しているほか、市内の小学校へヘルメットを寄贈するなど、幅広い活動を行っています。

また、「飲酒運転根絶の日」には、苫小牧と札幌のトラックステーションでの啓発活動を独自に展開するほか、季節ごとの4期40日の運動期間や節目の交通安全の日、10月9日のトラックの日などには、旗の波作戦や啓発グッズの配布などを、協会や各事業所においても積極的に取り組むを行っています。また、北海道や北海道警察と連携して実施する飲酒運転ゼロキャンペーンには「ゼロ」をイメージしたバームクーヘンを市民に提供したり、夕張市のキャラクター・メロン熊をモチーフにした飲酒運転根絶ポスターを制作するなど、市民や多くの観光客の心にとまる取組も展開しているほか、市内の小学校へヘルメットを寄贈するなど、幅広い活動を行っています。



第45回 プロが示す交通安全運動 実施要綱



◆「交通事故防止ラッピングトラック」への助成

トラックの車体に、交通安全を訴えるデザインを描き多くの人たちに交通安全を訴えようと、会員事業所を対象に「交通事故防止ラッピングトラック」への助成を行っています。従業員の家族や子供たちの作品を用いることにより、ドライバー自身の安全意識を高揚させるとともに、全道を駆け巡りながら、交通事故ゼロを訴えるいわば「走るポスター」。大きな車体には、優しい社会や明るい未来へのメッセージも描かれており、子供たちや地域の人たちにも人気です。



◆子ども交通安全教室

同協会の「青年部会」では、地域社会貢献活動・交通事故防止活動の一環として、毎年、地域の小学校などで交通安全教室を行っています。ダミー人形を使って、左折してきたトラックの後輪に自転車巻き込まれる様子を実演したり、実際にトラックに乗ってトラックの死角を実感してもらう体験のほか、車の合図確認の方法を知ってもらう講話などを実施しています。

子どもたちの安全のために、実際に見て、知り、体験する貴重な機会を、若い会員の方々がアイデアを出しあいながら提供しています。

